

Olympic
Movement

<平成28年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

市原市立国分寺台西中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施

※運動の時間と座学の時間間に10分の休憩時間があります。



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分） 準備運動（10分） 主運動（30分） まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分） オリンピックの価値を伝える（10分） グループワーク（20分） まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



実 施 内 容

- 期 日 : 平成28年7月13日 (水)
- 場 所 : 市原市立国分寺台西中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (34名) ・2年3組 (34名)
- オリンピアン : 三好 智弘 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限・3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・三好先生から自己紹介をした後、今日の授業ではオリンピックについて学んでいくが、オリンピックを身近に感じてほしいと伝え、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・主運動に入る前に①笑顔で授業を受けること、②全力で授業を受けることの2つの約束を守ってほしいと伝えた後、6班に分かれて風船リフティングリレー (3分×2回戦) を実施。3種類の大きさの風船 (大・中・小) から1つ選ぶ。手をつないで輪になり、手を使わずに風船を時計回りに連続してパスできた回数を競う。

4. まとめ



・様々な活動において、ちょっとした工夫で記録は伸びる (何かが変わる) 可能性があり、それが重要であると伝え、運動の時間で行ったことが、どのようにオリンピックの価値と関係しているのかを座学の時間で考えようと話し、2つの約束について守れたか振り返った後、運動の時間を終了。



実 施 内 容

■授業のながれ：座学の時間（2時限・4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・運動の時間とオリンピックがどう繋がるのか、「オリンピックとは何か」を知ってほしいと授業の目的を伝えた後、オリンピックの歴史（古代オリンピック、近代オリンピックの復興）やオリンピック開催期間中は停戦していたことオリンピックと平和等について説明。

3. 個人ワーク



・個人ワークを実施。運動の時間で話したことから、自分が尊敬する人とその理由を考えてみる。その後、数名の生徒からその内容（皆で風船に合わせて動いた、班を引っ張って声を出していた、発想を変えて他の班と違ったやり方を考えた。人と接する時の対応、場を和ませる雰囲気作り、周りに流されずテスト勉強に専念する等）の発表があった。

4. まとめ



・オリンピックの3つのバリュー（エクセレンス・フレンドシップ・リスペクト）は日常に溢れており、それに気づくかどうかで成長できるかできないかが変わる。オリンピックバリューにはお互いに思いやり、平和になろうというクーベルタンの思いが込められている。改めて今日培ったものと考えて、得たものを活かして、これから様々なことに挑戦し自分を進化させてほしいと伝え、授業を終了。



- 期 日 : 平成27年7月14日 (木)
- 場 所 : 市原市立国分寺台西中学校
- ク ラ ス : 2年2組 (34名)、2年4組 (33名)
- オリンピアン : 桧野 真奈美 先生 (ボブスレー)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・写真を使用しながらボブスレー競技について紹介した後、オリンピックバリューについて簡単に説明し、このバリューがオリンピックだけのものではなく、皆の周りにもあることを感じてほしいと話す。今日は全力で協力すること、諦めないで取り組むことを約束し、準備体操に入る。

2. 準備体操



3. 主運動



・3グループに分かれて、そりりレー (全2回戦) を実施。2人1組になり、ロープ2本と土嚢袋を使い、引っ張る人がロープ2本の端を手で持ち、そこに乗る人は反対側のロープの端を持ち、足をしっかり閉じて、袋の上に屈む。



4. まとめ



・全力で取り組んでいる人を見ると応援したくなる。他の人を応援し、そして、応援してもらえる人になってほしい。努力し続けられるかどうかで自分が変わる。逃げることもできるが、努力する習慣をつけてほしい。オリンピックバリューは特別なことではなく、日常生活でも感じることであり、それを忘れないでほしいと伝え、運動の時間を終了。





■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・写真と映像、桧野先生が実際に使用していた競技用具（ヘルメット、ユニフォーム、シューズ）を用いて、改めてボブスレーについて説明。
- ・3つのオリンピックバリューについて、生徒の意見を聞きながら、その解釈を板書していく。

3. グループワーク



- ・合唱大会に向けてオリンピックバリューをどのように活かせるかを個人で考える。その後班毎に話し合い、代表者が発表。
- ・全力で練習する、練習のための練習をしない、協力して早く練習を始める（エクセレンス）、失敗した人を責めない、相手の声を聞く、悪いところを指摘し合う（リスペクト）、準備してくれる人に感謝する、指揮者伴奏者に感謝する、歌える環境に感謝する（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは普段の生活や生きていく上でとても大切なことである。皆は無量大の可能性を秘めているので何事にも全力で取り組んでほしい。桧野先生は何度も挫折を経験したが、諦めずに続けた結果、振り返るとそれはただの通過点であった。これからどのような困難にあっても、もう1日、もう少しだけ頑張ってみようと思えば、今よりよくなっていくことを忘れずに努力し続けられるようになってほしい。
- ・2020年の東京オリンピックでは千葉でも3競技が開催される予定である。さらにオリンピックに興味を持ってほしいと伝え、最後に今日の2時限、全力で先生の話聞いて、協力してくれたことに感謝し、授業を終了。



■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組



■ 集 合 写 真

2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈



■ 証明書贈呈

